

各校が趣向を凝らした授業を公開 ふるさと参観日 10/14~28

本町の「ふるさと教育」の一環として、保護者や町民の皆さんに子どもたちの生き生きとした姿や学習の様子を観覧していただくことなどを目的とした「ふるさと参観日」が、町内の3小中学校で開催されました。

10月14日、庶路中学校2年生の授業では、白糠漁協婦人部（加藤美紀会長）の会員5人を講師に迎え、調理実習が行われました。メニューはイカリングとゲソサラダで、イカのさばき方などのアドバイスを受けながら、すべての調理を自分たちで行いました。試食会で、自分たちの手で作った料理の感想を聞かれた生徒たちは声をそろえて「おいしい」と笑顔で答えました。



また、授業終了後には、全校生徒や教員、保護者などの来校者がグラウンドに集合し、開校70周年を記念して「70」の人文字を作り、ドローンを使って上空から記念撮影を行いました。

20日、白糠中学校3年生の教室では道徳の授業が行われ、毎年行っているボランティア清掃を振り返り、自転車やタイヤ、ペットボトルなど様々なごみが捨てられている状況について、なぜごみを捨てるのか、どのような考

でごみを捨てたのかなど4人1組のグループに分かれて考えたほか、なぜごみを捨ててはいけないのか、ポイ捨てが与える影響についても意見を出し合い、3年間行ってきたボランティア清掃を通じて気付いたことや考え方の変化を確認しました。

28日、庶路小学校では、全校合唱が行われ「我が大地の歌～庶路バージョン」と「校歌」を元気一杯な歌声で披露すると会場からは大きな拍手が送られました。5・6年生の授業では、アイヌ文化体験教室が行われ、アイヌ民族の歌や踊りを学んだほか、来校者も交えて民族楽器ムックリの演奏体験が行われ、児童と一緒にアイヌ文化を体験しました。



▲上段/70周年記念撮影・下段/調理実習の様子(庶路中)



▲グループに分かれ意見をメモする生徒たち(白糠中)



▲元気な歌声を披露した全児童による合唱(庶路小)

避難場所を目指して駆け上る

白糠中・橋北2区合同避難訓練 10/17

白糠中学校の生徒と橋北2区町内会（平木勝廣会長）の会員約10人が合同の避難訓練を実施しました。

地震が発生し、大津波警報が発令されたと想定して行われた訓練は、校内で安全と避難経路を確保した後、津波指定避難場所の九合の山を目指しました。長い坂道に苦戦しながらも、全員10分以内に到着し、橋北2区町内会の会員と合流しました。

避難場所では、町職員からコンテナ内の備蓄品の種類や使い方などが説明され、生徒と会員は真剣な表情で話を聞いていました。



▲長い坂道を駆け上がる生徒たち